

高音防止用具(耳栓)の保管方法

- 1.プラスチック製又はゴム製の場合、使用した後に温かい水と石鹼で綺麗に洗います。
- 2.フォーム製の場合、使い捨てにしてください。使用した後に捨ててください。
- 3.清掃した後に、ホコリや汚れを防止する為に、専用箱に保管するかカバー付の棚に保管してください。
- 4.高い温度の場所に保管しないでください。
- 5.故障又は破壊された場合は、新しい物に交換してください。

良くある病状 とは

他の人の声は聞こえない又は聞き取れない

聴力は下がる

耳内に惑音がある



自分が聴覚障害の道具をしなければならぬ前に、作業開始前に必ず耳栓をしなければならぬ。

自分で聴覚障害の状況を確認する方法

聴覚障害の病状があるかどうかは、下記の通りの方法で簡単に確認することができます。

- 1.同僚の声が明確に聞こえない又は聞き取れないかを確認します。
- 2.病院で聴力検査を受けます。検査時間は10分-15分程度です。ヘッドフォンを両耳にあて、高い音から低い音までいろいろな音を聞き、どちらかの耳で25dBA以上の聴力になる場合は、聴力に異常があるということになります。
- 3.耳の中に高い音が出ています。

聴覚障害の防止対策

高い音又は長時間に音を聞くことを避けます。長時間に高い音を聞かなければならない仕事をする場合は、作業中に防音道具をしなければならない。また、毎年聴力の検査を受けなければならない。

SIAM STEEL SERVICE CENTER PCL



高音による聴覚障害への防止対策の実施及び教育のネットワーク



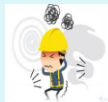
高音による聴覚障害への防止対策の実施及び教育のネットワーク

ネットワークのビジョン

SSSCは、
2022年までに協力のイノベーション
によって
聴覚障害を防止します。

高音による危険

- 1.爆発の音等突然に高い音を聞こえると、突然の聴覚障害になること。
- 2.長時間に高い音を聞くと、一時的の聴覚障害になる。
- 3.高音が休憩や睡眠時間に迷惑すること。
- 4.コミュニケーションに迷惑し、混乱になる。
- 5.作業に迷惑し、作業能力を避けてしまう。
- 6.ストレスや精神病になってしまう。
- 7.高血圧病や胃炎の原因になる。



高音による聴覚障害

聴覚障害若しくは耳遠いとは、長時間に強大音により難聴が生じたもので、内耳が損傷を受け、聴力のレベルが低下してしまいます。聴力レベルが 85 d B A 以上の場合は、一時的の聴覚障害の病状がありますが、月間や年間の長時間に強大音を受けた場合は、算定的な聴覚障害になってしまいます。聴力の低下は、少しずつ両耳に生じます。

高音による聴覚障害

- 1.機械による高音： 例えば、切断機、プレス機、研磨機、釘打ち機、ノコギリ等
- 2.作業のタイプ又は作業方法による高音：
例えば、鋼板の間で当たった音、修理の為のノック・叩いた音等。



自分で高音による聴覚障害を防止する方法

- 1.耳栓(Ear Plug)の使用： 費用は安く、よく使用されている用具です。音量レベルを約 10-20dBA 削減できます。



- 2.イヤーマフ(Ear Muff)の使用： 耳栓より価格が高いものです。イヤーマフの素材は、プラスチックや鉄製です。音量レベルを約 20-40dB A 削減できます。

